

奈良編 文化における和洋の融合

令和6年(2024)6月

<https://smtrc.jp/town-archives/city/nara/p05.htm>

写真でひもとく街のなりたち このまちアーカイブス

私たちが暮らす街のひとつひとつには、今日までの街の成り立ちがあり、それぞれの時代に生きた人々の歩みがあります。昔の写真を手がかりに、街の歴史や変遷をたどります。今では何気ない街並みの中にも、かつての街の面影や人々の思いが感じられる場所が残されています。

(HPより引用)

奈良編

文化における和洋の融合

平城京以来の歴史をもつ奈良は、美術品や文化財の宝庫でもある。特に、「正倉院」が所蔵してきた宝物は、博覧会で人気となり、「帝国奈良博物館」創設のきっかけとなった。また奈良における女子教育の拠点「奈良女子高等師範学校」が開校、キリスト教の「奈良基督教会」が誕生するなど、和洋の文化が融合し、奈良の近代化が進展した。

近代和風建築のキリスト教会『日本聖公会奈良基督教会』

1887年(明治20年)、花芝町に「日本聖公会奈良基督教会」が開かれた。その後「興福寺」の境内に隣接する登大路町に移転。1930年(昭和5年)、周囲の景観に配慮して、和風の礼拝堂と信徒会館が建てられた。設計・施工は、同教会の信徒である宮大工・大木吉太郎氏が担当した。

【画像は1930(昭和5)年】



奈良基督教会 正門

右の写真は、1930年(昭和5年)に撮影された「日本聖公会奈良基督教会」。中央奥に「興福寺」の三重塔が見える。

【画像は1930(昭和5)年】



奈良基督教会

(文：ホームページより)

写真提供：成瀬匡章氏